

 いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com



ツルウメモドキ

ツルウメモドキは日本、サハリン～中国原産の雌雄異株で落葉性のつる性低木です。和名の由来は葉がウメモドキに似ていて、つる性であることから。日本の各地に自生していて昔から親しまれている植物です。つるは無毛で1メートルぐらいまでは直立しその後他の木に絡んでよく伸びていきます。初夏に葉腋や枝先に淡緑色の花をつけますが目立ちません。雌の木には8mmほどの実がつるに群がって付き、10月頃に緑色からだんだんと黄色くなり、熟してくると3つに割れて中から赤色の種子が顔をのぞかせます。周りの木々が葉を落としはじめ赤い実が見

えてくると突然存在感を發揮し遠くからでもよく目立ちます。冬まで残った実は鳥がついばんだり雪をかぶったりした様が、色彩の少ない森の冬に彩りをそえてくれます。実付きの枝は生け花の花材として、またリースなどにも利用されています。(いとう)

まゆ玉飾りとミズキ

本来は豊かな実りを願う目的で、野山や庭から採ってきた小枝に、練った米粉を繭(まゆ)に見立てて丸め、枝先に飾りつけました。それを小正月、2月初午の日に壁や天井からつり下げたのです。花の乏しくなる北国では、どちらかと言えば正月を華やかに過ごすための飾りとして使われてきました。しかし昨今は鉢花、切り花が豊富に出回るようになったこともあって、これを飾る家庭は少なくなっています。こだわりのある人は縁起を担ぎ、若い枝が赤く、整然と水平方向に伸びるミズキを使うこともあるようです。

(かわはら)

鉢花の管理

1月是一年の中で最も気温が低く、室内で管理する植物は置き場所に気を使う時期です。温度確保は元より暖房の乾いた温風に当たり株や葉が弱ったりと注意が必要になります。温度と同じく光も生育に大きく影響します。窓辺は同じ方向から日が差し株姿が乱れたりするので、2、3日に1度鉢を回したり均衡になるように注意しましょう。シクラメンなど底面給水をしますが、乾燥させすぎず毎月一度は花に水が掛からないようにしっかり給水して株を弱らせないように維持してください。多肉植物などもつい給水しすぎるので、品種の確認などして、水枯れさせないように注意しましょう。水管理は中々難しいものです。(たかはし)

新春をお慶び申し上げます。

花壇作りや家庭菜園で楽しんでいらっしゃる皆さんは、新しい年を迎えて今年はどうのようにして楽しもうかと、色々構想を練っておられることと存じます。私もその一人で、庭先の小さな花壇と畑と言えるかどうかかわからない程の小さな菜園をどのようにして楽しもうかと思案中です。高齢の私には、この考えることもボケ防止の一環と言ったところですかね。花や作物を育てるには、何より愛情を込めることが肝要と言われますが、どうやらそれだけでは駄目なようで、天の恵み・すなわち天候次第で育ち方が大きく変わるようです。花が咲く時期、実がなる時期は、季節や月日だけで無く苗から育っていく過程の累計(蓄積)温度や、加算される日照時間が大きく関わっているようで、ある意味天候任せの部分が大半を占めているとも言えるでしょうね。今年は、温暖で適宜に雨が降り強風の無い年になりますようにと願うのは、私だけでしょうか。(ながやす)

*「今月の便り」次ページへつづく⇒

人の生活と植物

そういえばワインの蓋でおなじみのコルクがコルクガシ（ブナ科コナラ属）の樹皮だということをご存知ですか。人は生活の多くで植物に依存して暮らしていますが、このコルクガシにもとてもお世話になっています。ワインの栓、バトミントンの羽根、コルクボード などなど。森林面積の約 30 パーセントがポルトガルですが、地中海沿岸からアフリカ北部あたりまで植えられているようです。植樹して 25 年目ごろ初めて皮をはがし、それ以降は 9 年から 10 年ごとに皮を剥ぎ、1 本の木から平均 12 回（樹齢約 300 年）皮を採取するそうです。職人が斧で綺麗に皮を剥ぐ様は羊が毛を剥がされる姿と重なります。（きのした）



室内公園 色彩館

アブチロン Abtilon × hybridum
アオイ科イチビ（アブチロン）属 原産地：ブラジル



ひよろひよろ〜っとした低木に、直径 4 ~ 5cm ほどの花をうつむき加減に咲かせます。花弁の脈に血管の浮き出たような、なんともいえない模様。見方によってはグロテスクかも…。花容は同じアオイ科のハイビスカスによく似ています。花期は 6 月 ~ 10 月とされていますが、色彩館では冬期間のほうがよく咲いているイメージです。Abtilon × hybridum は、交雑されたものの総称を指し、和名ではフィリ（斑入り）アブチロンとよく云われますが、全て斑入りとは限りません。ぽこぽこしたハート型の花をつける浮釣木なども仲間、花や葉の形が品種によって様々です。

今月の開花情報



あなたは「おせち料理」はいつ食べるの..大晦日派？ 元旦派？

おせち料理は、大晦日に食べる派と、元旦に食べる派地方によって違いますね。我が家では大晦日夕食時にいただき、数時間置いて年越しそばを食べて新しい年を迎え元旦におせちの残りや雑煮を食べると言うのが北海道、東北地方の方に多いようです。また、新しい年を迎える時は縁起を担いで元旦に迎えの膳としていただきますと言うのが、東北地方以南の地域のようなようです。大晦日派、元旦派いずれも、1 年健康で過ごせた感謝と、新しい年が幸多かれと願う気持ちを持っていただくことだけは大切にしたいですね。

「おせち」は「御節供（おせつく）」や「節会（せちえ）」の略であり、中国から伝わった五節供の行事に由来します。奈良時代には朝廷内で節会として行われ、そこで供される供物を節供（せちく）と言いました。現在のような料理ではなく、高盛りになったご飯などであったとされており、この五節会の儀を一般庶民がならって御節供を行うようになったものと考えられています。正月料理は江戸時代の武家作法が中心となって形作られたといわれ、重箱に御節料理を詰めるようになったのは明治時代以降のこととされています。



ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)

番外編

『ザ・グランド・ローズ・ファミリー』

メイアン インターナショナル社

MEILLAND International

フランスのメイアンは“Peace”、“Pierre de Ronsard”などバラ好きなら誰でも知っている銘花をたくさん生み出している、世界でも有数の園芸育種会社です。世界バラ会連合の「殿堂入りのバラ」歴代 17 品種のうち、なんと最多の 5 品種も選ばれており、美しさのみならず強さも兼ね揃えています。その背景に、年に数千もの交配をし、10 万～12 万ほどの実生苗を 8～10 年かけて観察したのち 10 品種ほどを厳選していることから、高い美意識や情熱が窺えます。100%家族経営を貫くこの華麗なる一族がどのように 100 年以上にもわたり継承されてきたかについて今回は書きたいと思います。

メイアン社の育種は、19 世紀半ば、フランス・リヨンのテットドール公園で庭師をしていたジョゼフランボーがバラの育種をしたことから始まります。作出品種には“Perle d’Or (Pol)”などがあり、現在も愛されています(当園のウェルカムゾーン(縦通り)でもみることができます)。その後、ジョゼフの娘と結婚したフランシスデュブリュイも、元々仕立屋でしたがバラの魅力に引きこまれ育種を受け継ぎました。自身の名を冠した“Francis Dubreuil (T)”など、人名の付いたバラを沢山作出しています。メイアン社の有名人に捧げるバラの文化はここから始まっているのかもしれないね。

ここまででメイアンの『メ』の字も出てきていませんが…フランシスの娘・クラウディアと結婚したアントワーヌメイアンが 3 代目にして今の会社の母体を築きあげたため、メイアンの名が残りました。4 代目のアントワーヌの息子フランシスメイアンが、科学的な育種法を確立したと云われているシャルルマルランから学んだことで、育種に磨きがかかります。母クラウディアに捧げたバラ“Madame Antoine Meilland”がのちに世界で一番有名なバラ“Peace”として親しまれるようになります(“Peace”については過去の回(2014 年

8 月号)の『ひとつきひとばら』を参照してみてください)。しかし、フランシスは 1958 年に 46 歳の若さでこの世を去ってしまうのです。妻マリールーズは、先代で義父のアントワーヌと共にまだ青年だった息子のアランにバラのノウハウを教え込みました。おかげで、アランはしっかりと跡を継ぐことができ、商才にも長けているようで、現在もその手腕を遺憾なく発揮しています。ちなみに、子会社の「メイアン・リシャルディエ社」はアランの妹・ミシェルと夫リシャルディエが経営しています。

前述の通り人名を冠したバラが多いメイアン社ですが、ファミリーそれぞれにもバラがあることをご存じでしたでしょうか？アントワーヌメイアンは“Papa Meilland”、妻クラディアは“Peace”、フランシスメイアンは“My Garden”、その妻マリールーズは“Manou Meilland”、アランメイアンは“Alain”、妹ミシェルは“Michele Meilland”などなど…『自分のバラ』を持っています。『バラの創造者および生産者』と定義する根底に、血の通った人間に接するようにバラへ愛情を注ぎ続けていると感じるのは私だけでしょうか。これからも素晴らしい愛情たっぷりのバラを脈々と受け継いでいただけることを心から願います。

第11回

入場無料

いわみざわ洋らん展



日 2020年2月20日(木)～
程 2月23日(日)

時間：9:00～17:00

(最終日は16:00まで)

場所：いわみざわ公園バラ園内
室内公園 色彩館ロビー

出展募集

丹精込めて育てたあなたの一鉢を出展して、
会場をランの花園にしてみませんか？

出展料は何点でも無料です。

お申し込み：2月15日(土)までに

洋ラン愛好会 秋葉さん

(0126-56-2110) まで



今月の市民園芸講座のご案内



●1月13日(祝月) 13:00～15:00 折り紙でバラをつくろう 中級

料金：無料 定員：15名 講師：バラ園スタッフ

持ち物：筆記用具、おりがみ

●1月26日(日) 13:00～15:00 飾ってたのしい植物画～観葉植物編～

料金：材料代 1,000円 定員：10名

講師：木下京子さん フラワーマスター

持ち物：筆記用具、スケッチブック、パレット、ふで(丸筆大・小)